

第3学年2組 社会科 学習構想案

日時 令和6年9月26日(木)第5校時

場所 体育館

指導者 教諭 竹隈 雅人

1 単元構想

単元名	第2章個人の尊重と日本国憲法（2節人権と共生社会）（東京書籍「新しい社会 公民」 p37～74）		
単元の目標	(1)人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解することができる。 (2)対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本国憲法において、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現することができる。 (3)人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて粘り強く取り組むことを通して、主体的に社会に関わろうとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。	①対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本国憲法において、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。	①人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて粘り強く取り組むことを通して、主体的に社会に関わろうとしている。
単元終了時の生徒の姿			
日本国憲法において、人権を保障することが大切にされていることについて理解を深め、社会において人々の人権が十分に保障されているかを検討し、日本が抱えている課題解決に向け主体的に社会に関わろうとする生徒。			
単元を通した課題		本単元で働かせる見方・考え方	
日本国憲法で保障されている私たちの人権は、実生活でも十分に保障されているのか、話し合い検討しよう。		日本国憲法で保障されている人権とその根拠となる法律に着目し、それらを踏まえた上で、人権が日本の状況や暮らしの中で十分に保障されているかを検討し、日本が抱える課題とその解決について多面的・多角的に考察すること。	
指導計画と評価計画(7時間取扱い 本時4/7)			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
課題把握	1	○世の中で保障されている人権について、自分たちの生活を例に考えてみる。 ○日本国憲法で保障されている人権を分類し、保障されているかどうかを予想する。 ○単元を通した課題と単元の流れを確認する。	★【態一①】(方法:スライド) ○課題解決に向け、予想を立て、解決への見通しを持つようとしている。 ★【思一①】
課題追求・課題解決	5 (3/5)が本時	○基本的人権の内容を理解し、実生活においても十分に保障されているかを多面的・多角的に検討する。 ・平等権 ・自由権 ・ 社会権 ・人権を確実に保障するための権利 ○公共の福祉の考え方を理解し、多面的・多角的に公共の福祉との関わり方を検討する。	★【知一①】(方法:Googleスライド、小テスト) ○日本国憲法において保障されている人権の種類とその根拠となる考え方を理解している。 ★【思一①】(方法:Googleスライド、スプレッドシート) ○日本国憲法で保障されている基本的人権が十分に保障されているのかを、資料から検討し、自分なりの答えを考察し表現している。 ★【態一①】(方法:スプレッドシート) ○日本が抱える課題について考え、主体的に社会に関わろうとしている。
課題解決	1	○日本国憲法で保障されている人権の特色について、持続可能性、効率と公正など、多面的・多角的な視点から検討し、日本が抱える課題について自分の考えを説明する。	★【思一①】(方法:スプレッドシート) ○日本国憲法で保障されている人権の特色について、多面的・多角的な視点から説明している。

2 本時の学習

(1) 目標 社会権が暮らしや日本の状況で十分に保障されているか多面的・多角的に検討し、自分の考えを説明することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
つかむ	3分	<p>1 憲法で保障されている基本的人権の種類について復習し、「保障されているかどうか」について、考える。</p> <p>2 本時の流れを確認する。【課題設定】</p>	<p>○予習で教科書の「社会権」のページを1度読んで、大切だと思うところにラインを引くように指示する。</p> <p>○生徒の価値観を揺さぶる資料を提示する。</p> <p>○問題解決のために情報収集を行う意図を伝える。</p> <p>○学習の手引きをクラスルームとチャットの両方に送る。</p>
【学習課題】日本国憲法で定められている社会権は実生活でも十分に保障されているのだろうか？			
さぐる	35分	<p>3 社会権について調べる。【情報収集】</p> <p>○社会権（・生存権・教育を受ける権利・勤労の権利・労働基本権）</p> <p>4 社会権の中で、気になった権利について、十分に保障されているかどうか、検討し、自分の考えをまとめる。【整理分析】</p> <p>◇生活保護の金額は少し少ないかもしれない…</p> <p>◇コロナで勉強できない期間があったから保障されていないかもしれない。</p> <p>◇先生たちは働き過ぎじゃない？</p> <p>◇高齢者は収入がないから病院代などは全額国が負担してもいいんじゃない？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇全部負担すると、「税金」と「手間」が大変なことになりそうじゃない？</p> <p>・「確かに！」となる意見には「いいね」を押す。</p> <p>・自分と同じものに取り組んでいる人や、自分とは異なるものに取り組んでいる人とも話し合う。</p>	<p>○次の視点で見取りを行う。（教師の端末上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員のスライドが作成され始めたか。 ・学習が苦手な生徒が1人で作業をしてはいないか。 ○理解が難しい人には呼びかけてミニ授業を行う。 <p>○以後スライド作成とチャットでの意見交流を同時進行で行う。</p> <p>○【自己選択】自由形態で学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人・友達と話しながら・複数人で1つのスライド ○議論のポイントは4パターンと解決手段の提案を行う。（議論を深める声かけ） <div style="text-align: center;"> </div> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平等権や自由権との違いは？」 ・「全てを保障するべき？」 ○「現代社会の見方・考え方」を確認する。 ・効率・公正・持続可能性 ○見方・考え方をういて考えさせ、深まる意見へ価値付けを行う。 ○根拠を教科書から示すように指示する。
<p>【期待される学びの姿】○自分で学び方・学ぶ部分を自己選択しながら学習を進め、自分に最適な学びの形になるように協働を行う姿。○社会権への理解を深め、持続可能性の視点を持ち、主体的に社会に関わろうとする姿。</p>			
ふかめる			
まとめる	12分	<p>5 本時の学習を振り返る。【まとめ・表現】</p> <p>◇すべての保障に大きな手間と税金がかかる。</p> <p>◇少子高齢化の日本には厳しいかもしれない。</p>	<p>○学習内容、単元を通した学習課題、学習方法の3つのポイントで振り返る。</p> <p>○十分に保障されているとは言えない部分があることを押さえる。</p> <p>○平等権や自由権とのちがいに触れる。</p>
		<p>【まとめ】社会権とは、人間らしい豊かな生活を送るための権利だが、効率や持続可能性から考えるとすべて保障されているとは言えないかもしれない。だからこそ主体的に社会に関わって行かなければならないのではないか。</p>	<p>【具体的評価規準】観点：思-①</p> <p>○日本国憲法で保障されている社会権が十分に保障されているのかを、資料から検討し、自分なりの答えを考察し表現している。（スライド）</p>
			<p>【到達していない生徒への手立て】</p> <p>○振り返りの書き方を提示し、書き方を提示する。</p>

3 生徒主体の授業に向けた工夫

(1) 教科独自で取り組む工夫

学習課題	学習形態	タブレット
<p>学習課題を「日本国憲法で定められている〇〇権は実生活でも十分に保障されているの？」と毎時間同じ形で提示する工夫をした。問いの形を同じにすることで生徒の毎時間の授業の見通しを立てやすくすることをねらいとした。同時に、学習内容を自分ごととして検討する形で提示することで、学習内容のより深い理解と定着をねらいとした。</p>	<p>学習内容に応じて、生徒が意図をもって自己選択を行うことができるよう、自由形態学習を取り入れた。意図としては次の2点を意識するよう単元を通して声掛けを行う。</p> <p>【情報収集】自分の学びを上手く進めるために、相手や方法を選択すること。</p> <p>【整理分析】自分と同じ意見か、異なる意見かを判断して協働する相手を選ぶこと。</p>	<p>根拠となる資料を探す選択肢を複数準備する。</p> <p>①教科書データ(PDF):生徒が必要箇所を切り取って利用できる点を考慮。</p> <p>②スプレッドシート(リンク集)</p> <p>③インターネット</p>

※生徒主体の授業に向けた改善の視点(単元デザイン・学習課題・表現方法・振り返り・学習形態・見取り・タブレット)の中から、教科独自で設定しています。

(2) 本単元で取り組むクラウド活用の工夫(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点から)

ア 生徒が自らの学習を調整する機会の設定

- ・自分に合った学習方法の選択肢を複数提示し、選択させるとともに、その選択について振り返る機会を設定する。(Googleスライド)

【選択肢】

- ・1人で作成する。
- ・友人と話し合いながら作成する。
- ・友人と1枚のスライドを共同編集してそれを自分のページにコピーする。

イ 個別最適な学びを促進させるための工夫

- ・他者参照の際、協働する人を探しやすくするために、Googleスライドで資料に応じて背景の色を変える。それにより誰がどの資料に取り組んでいるかを分かりやすくする。(Googleスライド)
- ・チャットを用いて、自分が何を選択したのかを共有する。(チャット)

ウ 協働的な学びを促進させるための工夫

- ・チャットで自分の意見を表明し、全体共有をリアルタイムで行うとともに、相互評価を促すことで、様々な意見に触れることができるようにする。(チャット)
- ・教師が生徒の意見をクラウド上で把握し、学級全体の考えを深められる意見に価値づけを行うことで、全体の議論が深まるようにする。(Googleスライド、チャット、スプレッドシート)
- ・アウトプットの時間を増やすために、Googleスライドにまとめる体裁の枠を工夫することで、インプットを効率化する。(Googleスライド)